

令和4年度 学校自己評価システムシート (学校法人狭山ヶ丘学園 狭山ヶ丘高等学校)

目指す学校像	学力向上と希望の進路実現および部活動の充実発展を目指す。
--------	------------------------------

重点目標	1 大学合格実績の伸長 2 教科指導の徹底と学力向上 3 部活動の活性化 4 基本的生活習慣の構築
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	17名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	0名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (6月5日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒全員の学力向上を目指し授業の充実は勿論、朝ゼミ、放課後ゼミを展開している。新型コロナウイルスの感染対策を行いつつ、夏期講習等を実施した。</li> <li>生徒たちの多くは上位層の大学進学を目指しているが、最上位層への志望については減少傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望進路の実現。</li> <li>補習、講習への参加人数の動向。</li> <li>模擬試験等の偏差値動向を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体指導やガイダンスの際、自己の可能性を信じ、上位校を目指す指導をする。</li> <li>ガイダンス等で、適宜、必要な情報を生徒に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上位大学を目標とする生徒数。</li> <li>模擬試験等において実力が高まった生徒数。</li> <li>早い時期に目標大学を決め、その意志を持ち続けた生徒数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京大学に2名、また医学部にも多数合格する等、最難関大学への合格数は例年にない高い水準であった。ただ、難関私立大学への合格者数は前年度を下回った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来に対する目的意識を早い時期に持たせ、より高い目標を持ち続けさせることの重要性を認識させる。</li> <li>中間から下位層の成績をレベルアップさせる必要がある。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「思考力・判断力・表現力」の養成を強化している一方、生徒の表現力に差があり、どの程度まで理解しているのかを全体的に把握することが困難である。</li> <li>学習についてやや受け身であり、自己の課題探究にかける部分がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業中の態度に着目。</li> <li>小テストを使って理解度を見る。</li> <li>生徒の自学自習の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の理解度を定期的に小テストを実施することで掌握する。</li> <li>課題レポートなどを利用して生徒の表現力の向上につとめる。</li> <li>特別自習室を積極的に活用させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自学自習をするようになったかどうか。</li> <li>生徒の実力が向上したかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒は集中して授業を受けている。</li> <li>多くの生徒が特別自習室を活用して自学自習に励んだ。</li> <li>「表現力」の部分についてはいまだ発展途上である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークや対話的な授業展開を通じて、生徒の表現力向上につとめる。</li> <li>定期考査における論述問題の出題数を増やすなどの取組の継続。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動への加入状況は全体としては高い状況を維持しているが、ここ数年のコロナ禍において十分に勧誘活動が行えず、加入率がやや低下している。</li> <li>部活動の一層の活性化のために学習との両立をより重視していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試合や発表会の結果。</li> <li>活動報告の度数。</li> <li>体育祭や文化祭等における活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動に全生徒が参加できるように呼び掛ける。</li> <li>コロナ禍における、活動内容や活動時間に関する工夫。</li> <li>練習の日程や時間を見直し、効率の良い練習内容を考え、学習との両立をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動への参加人数が増加したか。</li> <li>活発に活動しているクラブが増えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動顧問会にて生徒の参加状況等を把握できた</li> <li>各クラス担任は、面談等を通じ、両立のための適切なアドバイスをした。</li> <li>県下でも良好な成績をおさめた部活もある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動への勧誘活動について、多くの生徒の参加意欲を高められるような工夫をする。</li> <li>短時間で効果的な部活動の運営を更に模索する必要がある。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣は概ね、確立されており、欠席、遅刻、早退は少ない。</li> <li>挨拶がしっかりできる生徒も相当数いるが、十分ではない生徒の存在もある。</li> <li>周囲の状況を弁えた行動がとれない生徒が若干いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶の励行</li> <li>弁えた行動がとれる。</li> <li>校則を遵守する。</li> <li>自転車の適切な乗車。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員で常に生徒を見守る。</li> <li>事前に十分指導、説得し、その上で、少ない校則を確実に守らせる。</li> <li>担任のHR時の指導を確実に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則違反者がどの程度減ったか。</li> <li>挨拶が交わされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活生の挨拶はしっかりできている。</li> <li>一部の生徒ではあるが、自転車の交通マナーについての苦情が定期的にきている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>HR時の担任指導を含め、あらゆる機会を活用し、マナーの徹底を指導として図っていく。</li> <li>交通マナー指導についてはLHR時の指導をより充実させる。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和5年7月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>難関私大合格者増加にむけての具体的な方策はどのようにするのか。</li> <li>学年や教科担当以外の先生でも、受験や面接のアドバイスをしてもらっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に授業は充実しているように思われるが、生徒の理解度に応じて、更なる学力向上のために指導していただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウイルスの感染状況が改善したことにともない、多くの文化部の活動も拡大しており、生徒たちにも良い影響がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒のマナーは良い傾向にある。</li> <li>一部の生徒の自転車に関するマナーがまだ悪い。</li> </ul>